

石垣が語る岡崎城

おかざき塾歴史教室

市橋 章男



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介を頂きました市橋と申します。歴史の勉強が好きで、今この道に入っているんですけども、やって良かったなと思うことがこの頃たくさん出てくるようになりました。というのは自分が調べたということではなくて、今日の森脇先生もこれでお知り合いになれたんですけども、会場の中にも八丁味噌の後藤さんなどの顔も見え、色々な方とお知り合いになれたことが自分の勉強になったんだと、今はつくづくそう思っております。先日は大変な雨の害で皆様のところは大丈夫だったでしょうか。この場を借りてお見舞い申し上げたいと思います。私のところは幸い何ともなかったんですが、ニュースを見て愕然としておまして、今日こういった楽しい勉強の会を迎えられたということは本当に良かったなと思っております。宜しくお願ひします。

早速ですが、皆さん天璋院篤姫のテレビをご覧になっていきますか？(スライドを示して)この人は誰かと言いますと、今一番格好良い役者がやっていますね。14代将軍の家茂公です。実際はちょっと濃い顔なんです。眉毛も太いし。ところが今の篤姫ではもう強烈な美男子が出てきますね。男として嫉妬するくらい。実際はこうなんです。安心して下さい。

ここを皆さん見たことはございますか？これは大樹寺の将軍御成の間なんです。この襖絵は、冷泉為恭という大変な画家が描かれた、これは重要文化財なんです。京都の国立博物館で修理をして、漸くして戻ってきて、はめた頃です。ここに1回だけ将軍がやって来た。その将軍が今NHKの篤姫に出ているあの家茂なんです。あの方が2回京都に上ります。1回目長州征伐の戦争で行くんです。そこでは勝つんですけども、2回目また長州が盛り返してくるんです。2回目の上洛、その時に恐らくですよ、篤姫が何を家茂に言ったのかということが興味深い。実は、東海道を歩いて行くんじゃなくて船で行くことになっていたんです。その方が楽だからと。ところが篤姫はその船で行くことに大反対をしたんです。船はいつ沈むかわからないから危険であると。陸上を行きなさいと。すったもんだした挙げ句、結局陸上を行ったんです。その時に「必ずご先祖様のところに寄りなさい」ということをおそらく篤姫は言ったんでしょう。家茂は2回目の長州征伐の時に久能山とそれからこの岡崎に寄ったんです。岡崎城に2泊しています。その時に伊賀八幡宮とこの大樹寺と松本町にあります松応寺というお寺、その3カ所にお参りをしている記録が残っているんですよ。今のNHK大河ドラマの、皇女和宮の旦那になる14代将軍家茂はこの岡崎に来たんです。ここに来たんです、というだけで良い観光宣伝の材料になるんですがね、何も言ってませんね。武田信玄の風林火山の時には、あの風林火山が出てくる。要するに準主役でもないような人物でも、そ

の村々に行くとねもう旗を立てちゃって凄いんですよ。あちこち風林火山の旗が立っているんですけども、あるところに行くと村上義清軍なんて立っているんですね。武田信玄の敵ですよ。もう出てくれば全部自分達の村の誇りになるんです。良いことですね。私はああいう日本人の姿を見ててね嬉しくなっちゃいます。郷土に自分達の故郷に対する思いが現れている。ということで今日は余談から入りましたが、ひとつ覚えておいてもらって、大樹寺さんに行って將軍御成の間をご覧になられますと、ここにNHKに出てきている家茂が寄ったというのがわかります。1回だけでした。後にも先にも1回だけでした。じゃあ本題に入りましょう。

さて、「石垣が語る岡崎城」という内容でお話をしてほしいというご依頼を受けてですね、「はぁ」なんて言ったは良いものの、それから岡崎城にちょっと見に行ったんですが、さて石垣は何を語っているのかと腕を組んで考えてしまいましたね。今日は「石垣が語る岡崎城」というよりも、先ほど森脇先生の方からもご紹介がありましたが、石垣が何を語っているのだろうかということをもっと結論として持っていきたいと思います。レジュメに従っていきたいと思いますが、お城の基本的な知識について、「まあそんなことはわかっているわ」という人が多いかもしれませんが、今日は初めてだと思って聞いて頂ければ幸いです。

1. お城とは「天守閣」を指すではありません

お城っていうのはどういうものをいいますかね、天守閣が確かに象徴ではあるんですけども天守閣を以ってお城という訳ではないんです。たとえば岡崎市の中にお城と言われるものが幾つぐらいあるかといいますと、新編岡崎市史の一覧表を見る限りは114あるんですよ、お城が。皆さんの町内、お近くにもきつとお城があるはずなんです。ただ、どんどんそれは年月を経て埋もれていましてですね、今はもう影も形も無くなっているというものがほとんどなんです。それでも顕著にお城だと今でもわかるものは幾つもあるんです。じゃあお城っていうのは何を指してお城っていうのか。天守閣が出来始めたのは慶長年間ですから、もう豊臣秀吉の天下になった頃から漸く日本のあちこちに天守閣が建ち始めたのです。家康公が岡崎に居る時には天守閣は当然ありませんでした。ですから徳川家康に関わる映画とかテレビを見てて天守閣が映ったらあれは大嘘なんですよ、大嘘。篤姫さんでもそうですよ。今のNHKはさすがに天守閣は映していませんね。だけど「大奥」というテレビドラマがありました。あの時はドラマの始まる時にいつでもバーンと江戸城の天守閣が映るんですよ。江戸城の天守閣はもう江戸の前期に焼けて無くなっちゃっているんです。無いものがある。まあ象徴してやっているということなんでしょうけれどもね。岡崎城といっても家康公の頃は天守閣はありませんでした。

お城といえるものはじゃあどういうものを言うのかというところを少し見て行きたい。今日は5つだけ簡単に紹介しましょう。これは何と書いてある？「岩津城址」、岩津の天神さんがいますね。東名高速道路を渡ったところに岩津城の登り口がございま

す。もう願っていたらしゃる方もおられますが、あそこは通って行くのに私有地みたいでしてね、許可がいるようなことをちょっと聞きましたが、中に行きますと岩津城址という碑が建っています。非常に良い状態で、600年ぐらい前だろうと思うんですが、そのままそっくり残っている。人の手が入っていない。これはね、この両脇はお濠なんです。大きなお濠がある。



岩津城址土橋

そして向こうの方からこっちに向かってこの道は何かというとな、獣道じゃあない。これは土橋なんです、橋。お濠の上に掛かっている橋なんです、と言っても木の橋ではない。そのまま左右両側を堀で切っておりますけれどもね、土橋がこういうふうに残っている。例えばこういうふう非常に良く当時のお城の様子わかる遺構として、岩津城というのがあります。この岡崎の中では中世の遺構の中で一、二番を争う保存の状態の良さです。

次ちょっと見てみましょうか。これ井田城と書いてあります。井田城。今の井田公園という公園がありましてね、重の家さんだとか、うなぎのおぎ乃さんだとか、あの辺の料理屋さんのちょっと東になるんですが、井田公園の中、井田城址という碑が建っています。ここは、元々酒井忠次と言いまして、家康公の四天王が居ましたね。その酒井家のお城だったところですよ。



井田城址

今は公園になっちゃっていますから、ここに上がってここがお城の跡だと思えるところはほとんど無い。無いけれども、道から少し上がっています。これが土塁の跡かなって思えるぐらいしか無いですね。でもお城があったところですよ。また行って見て下さいね、おもしろいですよ。

これは、能見城と書いてある。小さな石碑が建っていますが、これは松平重吉、能見松平氏のお城がこの辺りにあったというのがここなんです。浅井家の方が建てられた碑であります、江戸時代に造られた二葉松という、昔のお城の位置を示した書物があります。



能見城址

その二葉松には岡崎地域にあるお城が全部出てきますが、この能見城も出てきます。この松平重吉公、この能見城に住んでいた松平家は、その後は九州の大分県杵築藩、そこの藩主になっています。私は今年の春に九州に行ってきましたけれども、そこで岡崎の能見松平氏の跡に立ってですね、ああこんなところにあるんだと感動してきました。



上和田城址

その次、これは皆さんご存知。これ大久保一族と書いてあるんですね。大久保一族なんです。上和田にあるんです。上和田に上和田城の跡がある。そこにその石碑が建っている。ご存知ですか。渡橋という橋がありますね、渡橋をどんどん東の方へ行くと、そのうちに小豆坂の方に出て行く道です。今で言うと、上和田のユースタアのもうちょっと東側に行くとね上和田の公民館がありますが、その公民館の脇にこの碑が建っています。ここにお城があった。皆とも言われていますよね。これは、皆さんもご存知の方が多と思いますが、家康公の一番の危機であったと言われる三河一向一揆の時にここが最前線の砦になったんです。ここに大久保一族が立てこもって一向一揆と戦ったんですね。これがその場所です。

それからもうひとつだけ紹介しておきましょう。これはね渡城址とあります。渡城、これは矢作川の堤防の西側に、この手前の方に鉄橋の渡橋があるんですけども、ここにはこんもりした森がある。これが渡城の跡なんです、今は長嶋さんという方と鳥居さんという方が住んでおみえになる。これはもうわかりましたでしょうか。家康公の家臣の中でも有名でしたね、鳥居元忠、伏見城で玉砕をする家臣ですね。鳥居元忠の鳥居公のご先祖のお城。この中に入って色々見させて頂いて、そしたら、この道が田んぼの畦道だなと思っていたら、ここが旧鎌倉街道だと鳥居さん、長嶋さんはおっしゃってみえました。中世の古図を見ても確かにこの辺に道が通って、これがそのまま矢作川の堤防に上がったところに渡の土場があったんですね。つまり渡し場があった。渡し場のところは舟が着きますから、ここでその管理をやっていたのが鳥居氏だろうと思われます。鳥居元忠のお父さん鳥居忠吉という人が、家康公が15歳の時、駿府から一旦岡崎城に戻ってきます。墓参りの為に。その時にそっと家康を蔵に呼んで、貯めておいた金銭や鎧、冑、武器、それらを見せるんですね。それで家康は感激するんですが、その場所がここなんです。ここに連れて来た。というようにお城跡が残っている。まあ他にも山中城とか、これは凄い城ですよ。岡崎の中だけでも本当にそういうお城といえるものがたくさんあるんです。是非行ってもらいたいと思います。



渡城址碑

2. お城の形態

じゃあどこを見たらお城とわかるのっていう話をします。3つポイントがあります。3つ。これだけ今日覚えておいてほしい。その内のひとつが、お城と言うのは必ず敵から守る為の工夫がしてあるということ。それが土塁、攻めてきた時にすっと入ってこられないようにする為の土塁。それからもうひとつがお濠、それからもうひとつは陣地です。本丸の一番中心にはお殿様が居ますから、その周辺を固めてなるべく中心のお殿様のところまで攻めてこられないようにするような工夫がお城にはしてある。その3つが見られるようになるとプロです。だから今日この私の話を聞いて頂いて、さっそく「よ

し」と言って明日出かけられて見つけた人はプロの認定証を内緒で差し上げます。私も最初はよくわからなかったんですよ。「えっ、こんな竹藪が」なんて思ったんです。ところがね、私いつも家内と一緒に行くんですけども、この頃私よりも家内の方がね、「お父さん、ここに濠があるよ」とかね、偉そうにと思うんだけど見つけるんですね。悔しいもんだから、「こんなのどうかわからんぞ」なんて言いながらちゃんと写真撮っておくんです。これは間違いのないってね。皆さんも是非出掛けてほしい。その3つのポイントを今からお教えします。

まず、お城には、大きく分けて種類が3つあるんですよ。是非知っておいて下さい。戦国時代、室町時代、それよりもっと古くはね、鎌倉時代からお城が出来始めているんですが、一番最初の頃に城と言われるものが出来たのが、険しい山の上に造った砦です。攻めにくい、守りやすい、それが山城と言われるもの、これが3つのうちのひとつです。山城、山の上にある。今日お配りしたこのレジメの中に写っている写真、ちょっと印刷が見にくいかもしれませんが、田峰城と書いています。この辺りでは一番険しい山城で、田峰観音って行かれたことがありますか？北設楽の方ですね。豊根の方に抜けて行く時に、作手を通って行く時に田峰を通って行きます。トンネルがあります。トンネルを抜けてからかな。ぐるっと回り込んで田峰の山の方に登って行きますと、車でこの田峰城のすぐのところまで行けます。この写真は駐車場を降りたところから写した写真。この山の上の方にかすかですけども、館が建ててあるんですね、復元して。見えますか、ここまで歩くだけです。皆さんだったら大丈夫です。私はフウフウでしたけれども、そんなに険しくない。昔は大変だったですよ、きっと。これが田峰城。山城。元々は山岳密教の寺院が鎌倉時代はたくさん出来たんですよ。武士の中でも食いつぱぐれの武士達。つまり次男坊、三男坊。惣領制を鎌倉幕府は決めたんですけども、惣領じゃない、次男坊、三男坊は食いつぱぐれちゃう。その為に徒党を組むんです。徒党を組んで自分達で利益を生むような活動をする。かっぱらいもやる、強奪もやる、生産（農業）もやる。楠木正成っていうのもそういう連中なんですよ。悪党というんです。悪党というのは悪い人間っていう意味じゃないんです。つまり食いつぱぐれから外れちゃった者達が固まって自分達の活動をしていたようですね、武士としての。その悪党達が、その山岳寺院に寄るんです。そこに幕府の検非違使達が攻めてくる。その時にその山岳寺院に籠もって守るんですよ。それが元々の山城の始まりだと言われてます。一番山城の多いのは何といっても長野県です。長野県はもう城という城はほとんど全部山城、そうじゃないのは松本城くらいなもんです。松本城は平城と言いますけどね。



田峰城址



砥石城址

す。一般的には「ひらやまじろ」。まあ姫路城、彦根城なんていう有名な城がそうです。

もう一つ、平城というのがあります。平城というのは全くの平坦の地にどーんと天守閣が建っています。名古屋城、これは随分時代が落ち着いて攻防戦が無くなった頃、要するに行政の中心地として、それから威厳を見せる為に造ったお城です。大阪城、名古屋城それから江戸城、全部平坦地に造ってありますね。それでは岡崎城は山城、平山城、平城の3つのうちどれに分類されると皆さんお思いですか。どうですか。山城だと思われる方？平山城だと思われる方？はい、その通りなんです。ありがとうございます。平山城なんです。さっきの姫路城、彦根城、岡崎城というのは平山城でも最も有名な城なんです。そういったことで実は岡崎城が城郭として発達したのはその辺りにちょっと原因があるんです。岡崎に山城しかなかったらこういうお城は出来なかったんですね。松平清康公が造り始めた、家康公が居た、そして田中吉政という城造りの名人が入っていた、それで全国でも有数の平山城と呼ばれるようになったのです。さてそれがお城の3分類。良いですか。山城、平山城、平城、おわかりになりましたね。

3. 城跡はどのようなものでわかるのでしょうか

それからお城と言えるものはどこを見ればお城といえるのか、さっきその話だったんですね。そのうちのひとつが土塁、これは渡城。さっきの渡橋の鳥居さん、長嶋さんのお宅の周りに今でも残っている。土でこうぐるっと囲んである土の山が、これ土塁。600年ぐらい前のものがそのまま残っているんです。これ人間の大きさがどのくらいかという、私が立ってこの半分くらいです。だからここはね2メートル以上ある。結構上がるのでひょいひょいと上がれるものでもないですよ。ここが一番出口のところには赤い鳥居がありましてね、ご自分のお宅の御祭祀がある。お稲荷さんが祭ってあるんです。この土塁の上に。これが土塁の一種ですね。



渡城址土塁



吉田城址 (鉢巻型石垣)

これは豊橋にある吉田城。皆さん吉田城に行かれたことがありますか。吉田城というのはおもしろい城でしてね。元々は牧野氏という向こうの国人というんですけれども、「こくじん」というのは黒い人じゃないですよ。国の人と書いて国人、土着で住んでいる武士達です。その牧野氏が築いたお城がこちらまで土塁があったんですよ。見えるでしょう。その後、池田輝政という姫路城を造った武将が実は吉田城を完成させたんです。彼は吉田城に入ってこの貧弱な土塁を見てね、あっ、これは駄目だということで、土塁の上に石垣を積んでいったんです。1回積んだ、もう1回積んだんですね。ここは犬走りみたいになっていますけれども、犬もここを走れませんか、怖くて。二度積みをしている。こういう土塁の上に石垣を置いていくような積み方を鉢巻型なんていうふ

うに呼んでいる。吉田城に行くと、鉢巻型の変った石垣があるんですよ。土塁、石垣のセットが。豊橋に行くことがあったら探して下さい。家族と一緒に行って。もしも探してそれが当たったら鉢巻型でこういうふうなんだよと説明して下さい。絶対に株が上がりやすよ、これで。ということで、これちょっと変わっている。

ふたつ目、土塁の機能を高めたのが石垣、今日の主題になります。さて、石垣は積み方によって時代がわかる。それから大体積み方によってその大名の力の具合がわかる、権力の具合がわかる。石垣を積むということは、当時お城を造る、造作をする上では最も困難な、人手の要る、時間のかかるものだったんです。だから石垣がたくさんあるということは、そのお城は凄くお殿様が権力、力を持っていたということになるんです。そういう見方をする。立派な石垣がどーんとあるところありますよね、それはそれだけ権力を持っていたということなんです。岡崎城どうなんでしょうか、そういう目で見ていきましょうかね。これは、石垣がちょっと今日専門的になりますが、これだけ覚えておいて下さい。石材加工の程度によって、これは自然石を粗々積んでいった形、どんどんどん。そしてその間にぐり石のようなものを詰め込んでおくんです。それで動かなくしていく。こういうのを野面積と言います。覚えておいて下さい、野面積。さてこの野面積、代表的な野面積なんです、実は私は野面積が一番好きでして、石垣らしくって、その当時の人々の苦勞が見えるじゃないですか。

これどこだと思いますか？これはね、龍城神社のすぐ横から岡崎城天守閣の天守台を写したものです。わかりました？向こうの方にこっちに小天守があるんです。岡崎城は。そのこの回廊、渡り廊下がありません。ええ、これがその手前の石垣の写真なんです。これ典型的な野面積と言います。これは石材の加工の程度で、少し進化します。それは1個1個の石をはめ込んで行く時に、大体石と石が接する分だけカンカンカンと削ってそして打ち込んでいくという。これを、打込接と呼んでいます。この打込接になるとかなり権力が強いお殿様の造作ということになります。つまり、野面積よりもさらに人手が掛かる、技術が居る、職人が居るということなんです。こういったのを打込接と言います。さっきの野面積と比べると違いが皆さんおわかりになりますか。もう1回見てみましょうか。これが野面積、これが打込接。



天守台野面積



打込接

さてこれはどこでしょう。これも岡崎城の中です。はいそうです。何と言っているかあんまり良くわかんないんですけども、ここは武者走りになっていますね。ここにお堀があるんです。この向こう側にね、藤棚、藤棚は対面です。ここをちょっと歩いて行くと赤い橋がありましてね、天守閣に登っていくところです。これが打込接なんで

す。綺麗でしょう、少し。ということは岡崎城の城主というのはかなり権力があつたんですね。打込接があります。

さあもうひとつ見てみます。切込接と言います。こうなってくるとこれはもう芸術ですね。江戸城辺り、大阪城辺りはこの切込接が見えます。これはどういうことかと言うと、あらかじめ石材を加工して積んでいくんですね。普通は真四角に、長方形ですね。長方形に普通は加工しておいて積み木のように積んでいくんですが、岡崎の切込接はね、これはかなり高度です



切込接

よ。この形に切るんですよ、原石の形を利用して。寸分隙間の無いように、こういうふうに積んでいく。ジグソーパズルのようですよ。しかも直線的、綺麗な文様ですね。今、どなたも分からないようですね。これ岡崎城なんですよ。これが一カ所あるんですけれども皆さんご存知です？これ。切込接。これは、巽閣の隣、出口。ここを出て行くと下の方に売店があります。グラウンドの方に降りていく手前に。必ず行って見て下さいね。切込接という名前を覚えておいて下さい。野面積、打込接、切込接と段々段々技術が高度になっていくんですね。一般的には歴史は古い方が野面積と言われていました。原始的。段々新しくなるにつれて、江戸の前期からこの打込接が出てきて、そしてさらに時代がのぼるか、権力が強い人がはっきりしてきて切込接が出てくる。岡崎城には3つ共あるんですよ。3つ共あるお城というのは全国的にも珍しいんです。皆さんは全国にも珍しい岡崎城のすぐそばに居られるわけです。行ってお団子だけ食べて帰ってきましてなんて馬鹿なことはしないようにして下さいね。石垣を見てきてほしいですね。これがね切込接なんですよ。綺麗ですね。感動しちゃいます。

さて、これが石材の加工の程度で3種類。ただ、野面積がいつも全部古いという訳じゃないんです。例えば浜松城という城がある。浜松城の石垣は野面積です。丸系の石がある。天竜川から持ってきたんです。あの野面積は江戸の末期に積んでいるんですよ。まだ非常に新しいんです。江戸の末期に野面積しか出来なかったのかとあんまり言うと叱られてしまいますけれども、どこの藩も財政逼迫の折にですね、石垣を組むこと自体が大変なことだったんです。浜松城はなんでそれが出来たかということ、当時の老中水野忠邦のお城だったんです。水野忠邦、天保の改革をやった人ですね。

さあその次、これを見て下さい。これ皆さん覚えていますか。新聞に出ましたよ、これ。私はすぐに撮りに行きました。すぐそこです。大林寺郭の跡の石垣がそのマンション建設現場から発見されましたね。去年の11月です。あの時にセルビの駐車場の奥から撮った写真です。三浦正幸先生という日本でも指折りの先生が岡崎は凄いということを新聞に書いて頂いたんですね。この時に新聞に出たのは、野面乱積み。



乱積み

乱積みというのは、ここの積んだ目地がですね、ぐちゃぐちゃ。とにかく何の方向性も無い。これ乱積みと言うんです。この場合は野面乱積みと新聞記事に書いてあって。恐らくこれは何だろうというように思う人がいるかもしれませんね。野面積での乱積み。もう一つある。これこの間岡崎公園の旧グラウンドのところ、北側、東曲輪の下のところで発掘がありましたね。つい最近。あの時に撮ってきた写真。あの時には野面布積みと言っていた。どこが布積みなのか。布積みというのは石の積み方でも目地が大体横のラインを揃わしたもの、こういうふう。さっきの乱積みと比べると確かに横のラインが大体揃えてありますね。こういった場合はどっちかという石垣でも小規模で石は薄い、厚みがね。そういう場合に布積みになるようであります。これは杉田石材店の奥様から電話を頂きましてね、「先生これは、甲山の石ですよ、花崗石」と教えて頂きました。ということは、野面布積みをやったのは甲山の石を掘ってきたという歴史的な経緯と、その積み方が出来るという、石工達が居る。これはだから江戸時代でも中期を過ぎているかもしれませんね。比較的新しい積み方ということが言えます。良いことを教えて頂いたと感謝しております。さあこれで石垣の積み方わかりましたね。



布積み

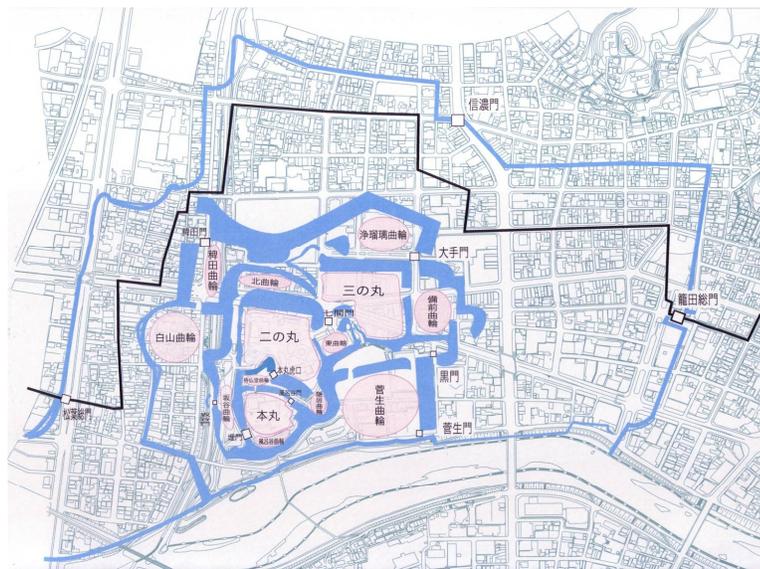
4. 曲輪（郭）と堀（濠）

もうひとつね、お城っていうのはどこで見たら良いかということ、ここに書いてある曲輪と濠。一般的に今、曲輪、濠というふうに書きます。でも時々「郭」と書いてあるのもあるし、「堀」はこういうふうに書いてあるのもある。曲輪というのは、これはもうどちらかという近世になってから使うようになった言葉。輪っかになっている曲がっているところという意味。そこには大体、家老級、重臣達のお屋敷が建っていたんですね。例えば備前屋さんの名称で有名な備前曲輪というのがここにある。皆さんわかりますね。これが本丸、二の丸、ここが備前曲輪なんですね。この備前曲輪には、伊奈備前守という方が屋敷を建てておりましたから、備前曲輪という名前がついた。じゃあこの「郭」というのは何かと言うと、陣地、防御線を表しているんです。今日のレジュメの2ページ目のところを見て頂くとね、わかりやすい模式図が書いてあります。

「関ヶ原松尾山砦図」。わかりますか？これは絵に描いてもらったものですが、山の中にこれだけの平坦地を掘削して、そこに兵隊達を置いたんですね。一番頂上が一番険しいところに大将の小早川秀秋が居たんですね。彼は1万5千の将兵持っていた。1万5千の将兵を山の上に上げるのにはこのぐらいの砦を掘削しなければ兵は登れませんね。そうすると、かなりたくさん曲輪があるんですね。関ヶ原の合戦というのはね、実はひと月くらい前から陣地の形成が行われていたと言われております。だから松尾山にその時に登ったんじゃなくて、かなり前から小早川秀秋はここに陣地を造っていたということになるんですね。そこにこれだけの兵を入れた。つまり曲輪が多ければ多し程、そ

の城の規模が大きいということです。当然ですね。しかも大きい、将兵の多い、武士達も多いということになります。

じゃあ岡崎城というのは曲輪はいったい幾つあるのでしょうか。レジュメの最終ページに絵図があります
が、この絵図は、新編岡崎市史の堀江先生の作った図を現代の地図に当てはめながら少し作り直してみた物です。元々の地図が非常に正確でありましたので、これも非常に正確であるとみんな思っていますが、これで見ると本丸、二の丸、三



岡崎城郭図(1)

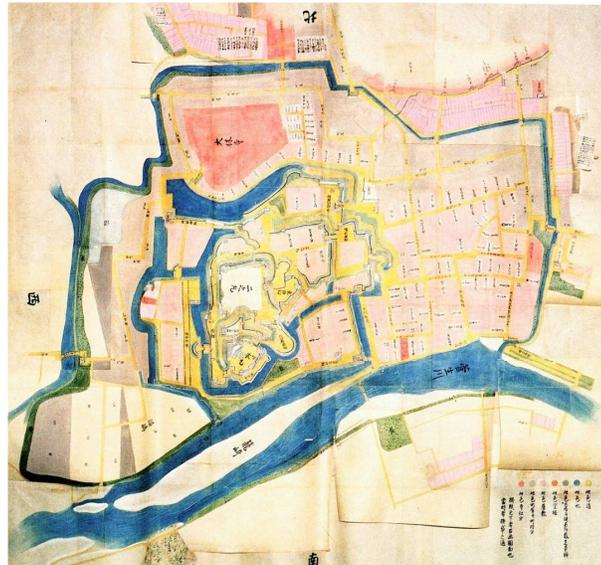
の丸まであって、あと菅生曲輪、それから備前曲輪、浄瑠璃曲輪なんて書いてありますね。これ全部曲輪。岡崎には曲輪が全部で14あります。14も曲輪を持つお城というのは愛知県でもトップです。非常に規模が大きいということです。しかも先年度ここで見るとわかるように、この大林寺の区画まで、これまで曲輪というふうに三浦先生がおっしゃって、大林寺曲輪、大林寺郭という言葉が去年から出てくるようになったんですね。私どもが岡崎市史を編集している時には14曲輪というふうに勉強してきたんですが、大林寺も曲輪に入れて良いとすると15の曲輪になりますね。非常に規模が大きい。じゃあ岡崎にはどのぐらいの武士が居たのか。大体二千人ぐらい岡崎城下に居たと言われていています。実は二千人がここに立てこもるといことはほとんどありませんでしたから、常は上級武士の屋敷があつたりして、がらんとしていたんです。大体こういう曲輪の中には岡崎城を修理しますよとか、濠を直しますよ、石垣を直しますよという時の作業場がこういうところにあつたんですね。作業場が。作業が終わると壊していたようであります。それが曲輪。

それから濠。この濠と堀とふたつ書く時があるがどっちだと聞かれます。これは、人間が造って掘ったものが、つちへんの堀。自然に流れている川や池などの水を流し込んで造ったものを、さんずいへんの濠と書くんです。ですから例えばこの辺りの濠は菅生川の水をそのまま流し込んでいるから、この字を本当は書いた方が良いでしょうね。ところがこの辺りの濠っていうのはそうではない濠ですからこっちの方の堀という字を書く。厳密に言えばそうですが、今はそんなことは言いません。こっちの堀で結構です、どっちでも結構なんです。お堀は2種類あるんですよ。水が入っているものを水堀という。空の堀を空堀と言います。岡崎城の周りには水堀と空堀が混在しています。普通ね、

お城の80%以上は空堀なんです。水を流し込んでいるところは少ないんです。岡崎城は平山城ですから水が入ったんですね。山城なんか水なんか入りっこないでしょう。ほとんど空堀ですよ。だから山城へ行かれたらお堀の跡ってのはあるけれどもね、なんかこれ堀なのっていうクエスチョンマーク付けちゃうような、人の通る道みたいに見えます。土塁と曲輪とお濠、その3つがあっってお城ということが言えるんです。天守閣があるか無いかは関係ありません。

これが全体図で、これは水野時代に書かれた絵図を本多時代にちょっと手を加えて屋敷図を貼ったものであります。だから情報としては非常に新しい岡崎城の図です。

これだと何がわかるかという、これが田中堀だと言われてますね。総堀という。籠田公園のところを通っています。ここまでを岡崎城郭と言いますが、この規模で言いますと、全国3番目だというふうに言われています。非常に大きい。我々が今普段岡崎城だと言っているのはここだけです。岡崎公園イコール岡崎城。そこをちょっとアップしてみます。これす



岡崎城絵図(2)

らも本当は岡崎城と言って、本当はここから岡崎城と言うべきなんだけどね。このところに新しく「りぶら」が建ちます。この間発見された石垣の跡というのはここ。ここがセルビの駐車場から見たところ。それからちょっと前には保健所の跡からというのがありましたね。あれがここ。ここここが発見されたんです。わずかですね。本当は凄く立派な石垣がずーっとあったんですよ。あれが全部埋まってしまふ。1年間で1センチ埋まっていくというふうに言われているぐらい現代社会は変化が激しくて、どんどん土の下に入っていっています。あとから見てみましょう、土の下を、驚きますよ。これが岡崎城の曲輪と主な堀ですね。こんなふうになっていた。ここにも岡崎の天守閣がありますね、この辺は空堀です。水堀は水色で塗ってある。このところ大きな堀でしたが途中まで水があっ、途中から空堀になっていましたね。こんな様子がわかっています。

では、これだけじっと見ていると一時間過ぎちゃいますので、これが先ほど言った岡崎城郭です。現代の地図です、これは。昨年か一昨年に市役所で貰ってきた図に載せたものです。このところからこう始まって、ここ籠田総門、ここに岡崎信用金庫の資料館があるところですね。すぐそこへ堀が通っていたんです、ずっと。これ素堀、石垣堀じゃないですよ。ずっとこれが本町のところのカーブ、ここに信濃門という門があった。

そこからちょっと行って、ここに御旗公園という公園がある。その北側をずっと通ってこんなふうにお堀が掘ってある。ですから、このお堀から中を岡崎城というふうを考える。これは大きいですよ。

だけど今、石垣という点で言ったら、ここの辺りをちょっと見て行くということにします。もう時間がありませんから最後ちょっと端折りますね。岡崎城郭図(1)を見て下さい。赤色のところ私が全部調べてきたところであります。現存どうなっているか。はい、これが一番最初。次行きますよ。これが二番目の赤、この間保健所のところを発掘しました。そこで見えている石垣の断片です。これ全部野面乱積みです、野面積。それから3つ目のところ、これね皆さんおわかりですかね。手前がりぶらが出来たところですね。この



保健所発掘跡石垣



国道1号線北、りぶら西南石垣

写真の向こう側のところに国道1号線が走っています。向こうが国道1号線。出っ張っているこの石垣があるんですね。実は新しく組んであるんですね。多分直してありますが、こちらの面を見ると、こちらの面よりも全然違うんですね。古いんですね。つまりここからあの大きなお堀が始まっていたというのがわかる。お堀の入り口です。このずーっといった続きがこの間発見された保健所のところの石垣になります。また見て下さい。次が、ここ北から順番に入っていきます。ここは国道から入ってくるところ。大手門とあるけど、あれは本当は七間門と言って、大手門はこの真ん前なんです。シビコビルを出たところが大手門だと思って下さい。お買い物広場の辺り。その国道のところにあるのは何かと言ったら七間門と言います。



東曲輪石垣(布積み)



二の丸石垣

そこから岡崎城に入って来ますね。この東曲輪と書いてあるところ、これがこの間の発掘調査、布積みと言われてます。野面布積み。この間の発掘調査の場所。それからこれが、これわかりますかどこだか、グラウンドから上がっていくところです。今は観光バスの駐車場。ここは違いますからね。これ一旦崩した石を

使って適当に組んであるんです。こちらに本物の石垣がこのまま残っている。これが二の丸の石垣で、これが野面積ですね。美しい野面積ですよ。これも野面積です。これわかりますか？この方はちょっとわかりませんが、たまたまね、これが二の丸の方から、つまりからくり時計の方からこっちに八千代さんの方に入っていくところ。これは岡崎城の虎口といわれる門ですね。この両側にも石垣がしっかりとそのままその時代のまま

残っております。今度は難しいですよ。わかったら偉い。ここのところ全体を順番に見て行って、ここここを見てみます。良いですか、これわかりますか？そうです、その通りです。上に八千代さんがあるんですね。そこから能楽堂の方に降りてくる道があるでしょう、石段が。この両側がしっかりと野面積で残っているということは、これは岡崎城を築城した頃からこの階段、石段はあったということが言える。600年前の道を今度は歩いてみて下さい。感動しますよ。次、これ実は能楽堂からずっと下へ降りて行くんです。降りて行って鬱蒼とした堀だか池だかわからないところがあるでしょう。あそこにね、わずかに石垣が見えているところがある。これは、凄い石垣なんです。算木積みって言うんですけどもね。幾何学的に一番角っここのところだけ直方体に切った石を真ん中で野面で積んだところが崩れてこないように固めたやり方です。お城の角度がずっと斜めになってね、こう。刃のように弧を描いて石垣が組んであるでしょう。あれが出来るのは日本だけです。

この算木積みという方法がそれを可能にした。生のいわゆる昔の算木積みっていうのがね、ここに残ってるっていうのが良いんですが、これしか出てないというのが非常に残念で寂しいんです。本当は、ここに壮大な石垣があるんです。今全部隠れちゃって。これはね、その下を降りてちょっと歩いたところから、ここに清海堀という堀が本当はあるんですが、今は木がいっぱいなんです。この堀が一番古いお堀。その上に、アーチ型の石の橋が架かっているのわかりますか？こっちが八千代、この左側が。こっちに八千代さんがある。こっちに岡崎城の天守閣が建っている。ここは渡しですね、通ってはいけません。でもね、下から見るとこの鬱蒼とした中に、ちょっと入ると見えるんです。だからこの雑草を切ってもらうともの凄く良い景観になるんですね。もったいないですね。岡崎城の中で探検しないとこれが見れないというのが。それはもう鬱蒼とした木の中には実は石垣が見えているんですが、少し崩れているんです。石垣の間から木が出ちゃ



本丸虎口石垣



能楽堂への石段



算木積（本丸下）



アーチ状石橋



坂谷門石垣

って、根が石垣を崩していつているんです。だから本当はもう一度修築をすると良いんですけども。今のところは大丈夫なようですが、ちょっともったいないですね。

これが、伊賀川の手前から見た、ここわかりますか？これは坂谷門という門ですね。大きな石組みがしてあります。この門から家康のお母さんの於大の方はさよならをしたんですよ。離縁されて出て行ったのはこの門だと思います。この門から出て最初から船に乗ったんです、輿じゃなくて。船に乗って菅生川から矢作川に出て渡まで行くんです。渡から土場から上がって刈谷まで行ったということになります。ですから、ここが於大の方が出て行ったところ。この前は純情きらりのあおいちゃんが歩いていましたね。あそこで口ケやっていたところですね。この石垣も実はもう半分壊れている。木の根っこが石垣を崩しちゃっています。

これは、最後岡崎城にちょっと上がるところに門があるでしょう。龍城神社に上がっていくところ、あそここの左側に見える石垣。これは壮大な天守、本丸を形造っている古い石垣であります、これは野面積であります。綺麗な野面積であります。

これはおわかりですか。これを上がるとここに龍城神社がありますね。龍城神社があつてこっちに駐車場が2、3台駐まれる。下からずーっと上がっていく所、こここの所が野面積なんですね。ここは非常に珍しくて、これは算木積みのようにやってあるけど多分直したものでしょう。野面積で算木積みってまだこの頃出来てなかったと思うんですけども、多分補修したものだと思うんです。

それがわかるのは、この続きを見て下さい。この続きを今から写します。ここでちょうど切れている。ここまでが野面積、ここからしっかりと打込接になっているんですね。こういうふうに、ひとつの面の石垣で積み方が急に変わったりとか、その増築したり直したりした跡が見えるお城というのも珍しいんですよ。どこに行ったってそんなに見えるものじゃない。

次行きます。これなんかそう。これ藤棚から見たもの。これ綺麗でしょう。これは打込接、ここは本丸のこれはどっちかという野面積ですよ。種類の違う石垣がここに現存ふたつ一緒に見える。これは赤い橋から渡って上に登っていくところ、ここが一番古い石垣だと思われます。行ったら見て下さい。でもこれは田中吉政がおそらく組んでいる野面積。これが野面積の隅っこですが多分そのまま残っている。見て下さい。さっきみたいにきちとなっていないでしょう。これは算木積みとは言えない。崩れる可能性もあるんですが、きちとまあ造つてあるんですね。



本丸西側石垣



本丸埋門石垣



本丸石垣の変化

最後、ここのところを見ます。本丸に入ってくる。ここに僕が風呂谷門って書きちゃったんですがこれ間違いですからね。これ風呂谷門というのはここ。これは多門と言います。では写してみます。これが最初に見せた天守閣の、天守台の石積み。これは先ほど見ましたね。巽閣の隣。



風呂谷門石垣(1)

この堀はどこかわかりますか？これが清海堀と言います。岡崎城で最も古いお堀になります。15世紀の前半にですね、西郷頼頼、頼嗣とも言いますが、砦を造った時に掘ったお堀です。その頃から石垣があったのかというと、その頃は素堀だったと思います。これはその後堀を固めるのに石垣を積んでいったと思います。でもこんな深くて鋭利な堀って珍しいですよ。それがそのまま残っている。こういうふうですね。



風呂谷門石垣(2)

こっちの方に見えますね、これは土塁の代わりに石を積んだもので石塁と言います。これ珍しいんです。これ石塁。だからこの辺のところにもね、たこ焼きだったかお団子屋さんがいっぱい並びまして、ここ隠しちゃうんです。良いところの前でお店を開いてしまう。だから今度行ったらお団子屋さんの間に入って見てきて下さい。嫌がられるかも知れませんが。

これが最高です。これで最後、これは手前から降りていくとお茶屋さんに出る所。岡崎城の天守閣がこっち側にある、今のところを手前に降りていくと、ここからお堀が始まる。船が昔よく停まっていたね。ここを見るとね、ここ野面積であって、ここを修復した後があって、こっちの方は打込接に変わって、これは非常に新しい積み方。時代が進むにつれて石垣はこう変化していったというのが、あれ一カ所で全部わかっちゃう。これは凄いことです。

これはニューグランドホテルの下のところですよ。ここにも石垣があるんですよ、ずっと。菅生川の石垣ね、これも古いですね。江戸の初期になります。さあカミソリ1枚通らない石垣というのが岡崎にあるんです。今日、後藤さんお見えになっていますかね。ああお見えになりますね。八丁味噌の後藤さんに案内して頂いた八丁の味噌の蔵です、これ。蔵のこの石垣も実は江戸時代に造られたもの。これこそカミソリ1枚入らない。こんなふうになっている。1個積むのに丸一日では積めないでしょう。ジグソーパズルなんてもんじゃない。これだけのものを積んでいくというのは如何にその頃財力があつたかということなんですね。これはまるやさんの方にもこういった石積みの後が見られます。これは凄いですね。

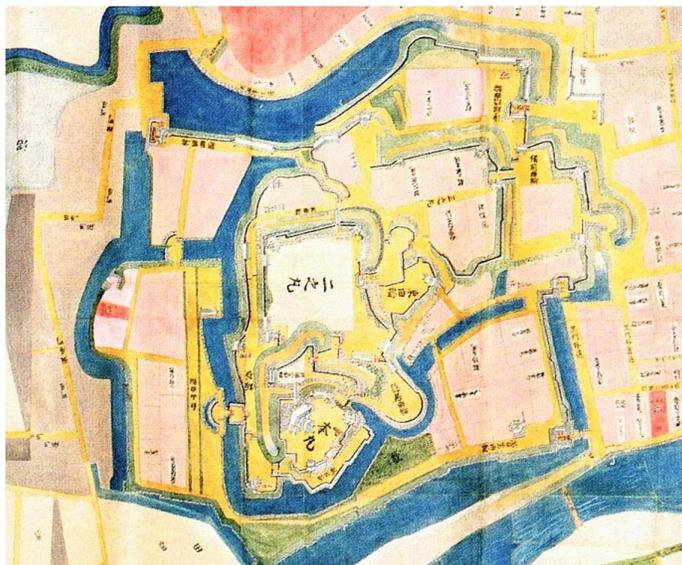


八丁味噌石垣

これわかりますどこか。からくり時計ですよ。皆さんからくり時計家康さんだけ見

ているでしょう。下を見て下さい。普通だったらこんな石積みをしませんよ。岡崎市だからできる石積みであります。最後このページの下のは一番新しい岡崎城の図です。

これ見るとね、この図で石垣が見えるはずですよ。ここまであった。どこなものというのは上の図で1回照らし合わせて見て下さい。これが現代のです。良くわかるはずですよ。そうするとこの中にこの石垣が堀の跡がいっぱい隠されているんですね。もしもこのまま変わらずに残っていたら姫路城が世界文化遺産なら岡崎城だって世界遺産ですよ。世界遺産級ですよ本当に。



岡崎城郭絵図(3)

に。石垣から見えたもの、それは岡崎の「誇り」であります。どうも今日のご静聴ありがとうございました。